

ジョイント分析を行った。なお、質問文が「あなたと配偶者の年収」を問うているため、分析はサンプルを現在配偶者が「いる人・いない人」に分けて行っている。

5つの属性の水準は以下のとおりである。

- 1) 性別（男性、女性の2水準）
- 2) 現在の就労状況（就労している、していないの2水準）
- 3) 教育年数（0から8年、9年以上の2水準）
- 4) 過去の最長職の職業的地位（専門、大企業ホワイト、中小企業ホワイト、自営ホワイト、大企業ブルー、中小企業ブルー、自営ブルー、農業の8水準）
- 5) 婚姻関係（死別、離婚、未婚の3水準。この属性は、配偶者がいない人の分析にのみ用いた）

4. 結果

分析で得られたストレスの最小値は、配偶者がいる人は0.574（11回目の反復）、配偶者がいない人は0.448（18回目の反復）であった。紙幅の都合により、分析結果の詳細は報告当日に提示することにし、ここでは分析で得られた部分効用を配偶者の有無ごとに簡単に記述しておく。

配偶者がいる人においては、夫婦合算の年間所得を従属変数としているために、性別による差は見られなかった。しかし、他の3つの属性においては明確な差が見られ、現在就労しており、教育年数が長く、過去の最長職が専門・大企業ホワイト・中小企業ホワイトであった人は現在の所得が高い。そして、この3つの属性のうち、過去の最長職が現在の所得に対してもっとも大きな影響を持ち、現在の就労状況と教育年数がこれに続く。

一方、配偶者がいない人は、5つの属性すべてにおいて差が見られ、男性で、現在就労しており、教育年数が長く、過去の最長職が大企業ブルー・専門・大企業ホワイト・自営ホワイトであり、未婚の人が現在の所得が高い。配偶者がいない人においても過去の最長職が現在の所得に対してもっとも大きな影響を持つが、その差は配偶者がいる人に比べ小さくなっている。また、配偶者のいない人については、過去の最長職に次いで性別が現在の所得に大きな影響をもっており、女性の高齢単独世帯がおかれている経済状況の厳しさを窺い知ることができるだろう。

参考文献

- チャールズ・ユウジ・ホリオカ他、1996、「高齢者の貯蓄行動」、『高齢化社会の貯蓄と遺産・相続』、日本評論社、55-111。
- 駒村康平・渋谷孝人・浦田房良、2000、『年金と家計の経済分析』東洋経済新報社。
- 宮島洋、1992、『高齢化時代の社会経済学』岩波書店。
- 野呂芳明、2001、「職業キャリアと高齢期の社会階層」Pp. 111-129 平岡公一 編『高齢期と社会的不平等』東京大学出版会。
- 清家篤・山田篤弘、1998、「Pension Richの条件」Pp. 99-125 八田達夫・八代尚宏 編『社会保険改革』日本経済新聞社。
- 高山憲之、1993、「高齢者の生活実態と資産保有」Pp. 97-122 高山憲之・原田泰 編『高齢化の中の金融と貯蓄』日本評論社。
- 橋本俊昭・下野恵子、1994、『個人貯蓄とライフサイクル』日本経済新聞社。
- 山田篤裕、2000、「社会保障制度の安全網と高齢者の経済的地位」Pp. 199-226 国立社会保障・人口問題研究所 編『家族・世帯の変容と生活保障機能』東京大学出版会。

E-mail : kimura@rc.kyushu-u.ac.jp

高齢期における余暇活動への参加態度

—過去の職業との関連をめぐって—

○九州大学

東京都老人総合研究所

ミシガン大学

木村 好美

小林 江里香

Jersey Liang

1. 問題

老人医療費や年金、介護など社会保障に関する問題がしばしば指摘されるせいか、ともすれば「高齢社会」という言葉には、暗いイメージが付きまとう。これに対し、近年「明るい高齢社会」の提唱が盛んに行われ、「高齢社会」よりも「長寿社会」という表現が用いられることも多くなっている。

では、社会全体としてではなく、個人として老後の生活を考える場合、人々は「明るい長寿社会」「暗い高齢社会」のどちらをイメージするのだろうか。

高齢期の特徴の一つに、「自由時間」の増加がしばしば挙げられる。高齢期において、定年退職などによる現役第一線からの引退、もしくは子どもの独立による家事労働量の減少などを機に、多かれ少なかれ自由時間は増加する。完全に仕事から引退した場合は、「毎日が日曜日」という状態になる訳だが、この増加した自由時間を持って余すか満喫するか、すなわち家事行動や生理的・必要行動（食事、睡眠など）以外の時間を、趣味やサークル活動などを満喫して過ごすか、あるいはやる事が何もなくただぼんやりと過ごすかは、個人レベルで「明るい長寿社会」「暗い高齢社会」のどちらが到来するかを峻別する一要因となるのではないだろうか。

もちろん、「家でぼんやりするのが幸せ」という「何もしない」自由時間の満喫の仕方もあるだろうが、

- ① 老年学での「活動理論と離脱理論」論争に関する日本の実証研究において、大半の論文が活動理論を支持していること
- ② 老後の「生きがい」および「幸福感」の要因として余暇行動における活動性が注目されていること

から、本報告においては、個人レベルでの「明るい/暗い老後の生活」を考える一視角として、高齢期における旅行・外食・趣味や稽古ごとという三つの余暇活動への参加態度に注目したい。

言うまでもなく、旅行や外食あるいは趣味・稽古ごとなどを行う際、それらの活動が行えるような健康状態にあることに加え、それらの活動に参加するに足る、ある程度の経済力が必要である。このことを踏まえ、本報告においては老後の経済状況を大きく規定する「一番長くしていた仕事（過去の最長職）」に注目し、70歳以上の高齢者が、旅行・外食・趣味や稽古ごとという余暇活動をどれくらい行っているか、それらの活動にいくらかの支出しているか、またそれらの活動内容は、過去の職業（職業的地位）を中心とする階層要因により異なるのかを、全国調査データの分析を通して検討する。

2. データ

分析には、東京都老人総合研究所・ミシガン大学共同の長期縦断調査プロジェクト「後期高齢者の資産と健康に関する全国調査 (Asset and Health Dynamics Among the Oldest Old)」(AHEAD 調査) データより、1999年10月に実施された第五回追跡調査のうち、日本全国から70歳以上の男女2000人を層化2段無作為抽出した新規対象者データより代行票を除き、完了票のみを利用した。

表 1 : 1999年 AHEAD 調査 新規対象者

サンプル数	完了票	代行票	欠票
2,000 (100.0%)	1,405 (70.3%)	231 (11.6%)	364 (18.2%)

過去の職業との関連を見るために、この新規対象者の完了票からさらに 1.70 歳以上の退職経験のある男性、2. 職業項目に欠損値のないもののみを分析に用いた。職業的地位ごとのサンプルの内訳は以下のとおりである。

表 2 : 職業的地位ごとの有効サンプル数

職業分類	有効サンプル数 (%)
専門	32 人 (7.0)
大企業 W	95 人 (20.8)
中小 W	52 人 (11.4)
自営 W	30 人 (6.6)
大企業 B	71 人 (15.6)
中小 B	78 人 (17.1)
自営 B	42 人 (9.2)
農業	56 人 (12.3)
計	456 人 (100.0)

3. 結果

詳しい分析結果は、当日追加資料を配布し、報告することにし、ここではどれくらいの人が旅行、外食、趣味・稽古ごとの活動を行っているのかのみ明らかにしておく。

表 3 : 職業的地位と活動の有無

	旅行		外食		趣味・稽古ごと	
	した (%)	しなかった (%)	した (%)	しなかった (%)	した (%)	しなかった (%)
専門	11(34.4)	21(65.6)	22(68.8)	10(31.3)	13(40.6)	19(59.4)
大企業 W	60(63.2)	35(36.8)	68(71.6)	27(28.4)	44(46.3)	51(53.7)
中小 W	32(61.5)	20(38.5)	35(67.3)	17(32.7)	20(38.5)	32(61.5)
自営 W	18(60.0)	12(40.0)	16(53.3)	14(46.7)	10(33.3)	20(66.7)
大企業 B	33(46.5)	38(53.5)	37(52.1)	34(47.9)	26(36.6)	45(63.4)
中小 B	31(39.7)	47(60.3)	29(37.2)	49(62.8)	19(24.4)	59(75.6)
自営 B	18(42.9)	24(57.1)	15(35.7)	27(64.3)	11(26.2)	31(73.8)
農業	24(42.9)	32(57.1)	15(26.8)	41(73.2)	8(14.3)	47(83.9)
合計	227(49.8)	229(50.2)	237(52.0)	219(48.0)	151(33.2)	304(66.8)
カイ2乗値		19.30**		48.68**		28.55*

**p < 0.01, *p < 0.05

合計より、旅行や外食を半数近くの人が実施しているのに対し、趣味・稽古ごとは約 30% ほどの人しか実施していないのが分かる。旅行は大企業 W・中小 W・自営 W が、外食および趣味・稽古ごとでは専門・大企業 W・中小 W に活動者が多く、大企業 W・中小 W がすべての項目において活発に活動していることが分かる。また、旅行以外では自営 W と大企業 B が、中小 B と自営 B がそれぞれ同程度に活動しており、旅行の項目のみ他の項目と傾向が異なっている。

ただし、外食は近くにお店が無いと出来ず、趣味・稽古ごとの活動も近くにカルチャーセンターがある、市民講座が開催されている、という環境条件が活動の有無に大きな影響を及ぼしている可能性が高いことに注意を払う必要がある。

GENDER DIFFERENCES IN SOCIAL NETWORKS AMONG THE JAPANESE ELDERLY

E.Kobayashi, T.Fukaya, Y.Sugihara(Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Itabashi-ku, Tokyo 173-0015, Japan, erikak@tmig.or.jp),
H.Sugisawa(Obirin University), H.Kim (Hoseo University),
H.Akiyama(University of Tokyo), J. Liang (University of Michigan).

This study examined: 1) gender differences in social networks and their related factors, and 2) differences in the social networks of two separate national probability samples of Japanese respondents aged 70 + collected in 1987 and 1999 (repeated cross-sectional surveys). Dependent variables used in the ANOVAs consisted of the number of close friends, and close neighbors, frequency of contact with non-family members, and frequency of participation in community groups. The results indicated a significant gender by year interaction whereby women reported having more friends and greater contact with non-family members than did men although this gender difference was greater in 1999 than in 1987. Regression analyses, conducted separately for each gender, were also undertaken using the following independent variables; year, age, education, financial situation, physical functioning, marital status, co-habitation with child, current employment status, population density (referred to as urbanism), and these variables in interaction with year. A significant interaction between urbanism and year was found for both men and women, suggesting that the elderly living in urban areas had fewer close neighbors than elderly living in less densely populated areas although this trend was greater in 1999 than in 1987. The results also indicated several significant findings such as: 1) being employed for a woman was associated with having fewer close neighbors in 1999 but not in 1987, and 2) having more years of education for men was predictive of greater participation in groups in 1987 but not in 1999. These results suggest the need to consider the changing aspects of male and female social networks.

**GENDER DIFFERENCES IN PRODUCTIVE
ACTIVITIES AND WELL-BEING AMONG THE OLD-
OLD IN JAPAN**

Y. Sugihara, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Itabashi-ku, United States, H. Sugisawa, Obirin University, Machida, Japan, E. Kobayashi, T. Fukaya, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Itabashi-ku, Japan, J. Liang, The University of Michigan, Ann Arbor, MI, G. Hougham, The University of Chicago, Chicago, IL.

Objectives: The aims of this study were (1) to examine time spent for productive activities of the Japanese old-old by gender and age, (2) to examine the influences of productive activities on their subjective well-being, and (3) to identify individual resources related to their productive activities.

Methods: Data are from a 1999 national probability sample of Japanese elderly aged 70 and over (n=2605). Productive activity was indicated in three ways: paid work (both full- and part-time jobs); unpaid work at home (housework, child care, home maintenance); and unpaid work outside the home (volunteer work, helping friends and neighbors). Results: (1) 78.2 percent of respondents engaged in some type of productive activity, and the total amount of time spent in various productive activities averaged 953 hours per year. Women aged 70-79 spent the most time engaged in various activities, an average of 1,227 hours per year. (2) The effect of productive activities on subjective well-being was dependent on gender and the type of activity. Paid work increased measures of life satisfaction and ikigai ("purpose and meaning of life") for men, but had no significant influence on the subjective well-being of women. Unpaid work at home decreased life satisfaction for both men and women. Unpaid work outside the home increased life satisfaction and ikigai for men, and increased ikigai for women. (3) Physical ability and age were associated with all types of productive activity for both men and women, whereas the effects of social resources (such as SES and personal support) differed by gender as well as by type of productive activity.

研究成果の刊行物

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
小林江里香	「全国高齢者の生活と健康に関する長期縦断調査」プロジェクトの概要	中央調査報	541	1-5	2002

資料 2 調査票

長寿社会における高年者の暮らし方の日米比較調査

2002 年 10 月

東京都老人総合研究所
 東京大学文学部
 ミシガン大学老年学研究所
 社団法人 中央調査社

支局番号		地点番号			対象番号		パネル番号					調査員名	点検者名
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫		⑬⑭=01

【調査員記入】

(1) 訪問回数

 回

⑮⑯

(2) 調査日

 月 日

⑰～⑳

(3) 調査所要時間

 分

{ (開始) ____ 時 ____ 分
 (終了) ____ 時 ____ 分

㉑～㉓

【調査員注】 対象者の用事や休けいなどで中断した時間も含める。

【調査員注】 面接を始める前に、必ず次の文章を対象者の前で読みあげること。

この調査では、いろいろなことをおうかがいしますが、答えたくないことについては無理にお答えいただく必要はありません。なお、お答えいただいたことについては、厳重に秘密を守り、他の人に知らせるようなことは一切ありませんので、どうかご安心ください。また、失礼なこともおうかがいするかもしれませんが、これはアメリカの調査と比較研究する必要があるためです。何とぞお許しください。

【基本属性・家族構成】

さっそくですが、あなたご自身のことをうかがいますので、よろしくお願いします。

Q1. あなたの生年月日をうかがいます。……おいくつですか。

【調査員注: 対象者が答えたとおりに記入する】

1 2 3
 明治 大正 昭和

年 月 日 歳

⑳ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛

【調査員注: 名簿より転記】

1 2 3
 明治 大正 昭和

年 月 日

㉜ ㉝ ㉞ ㉟

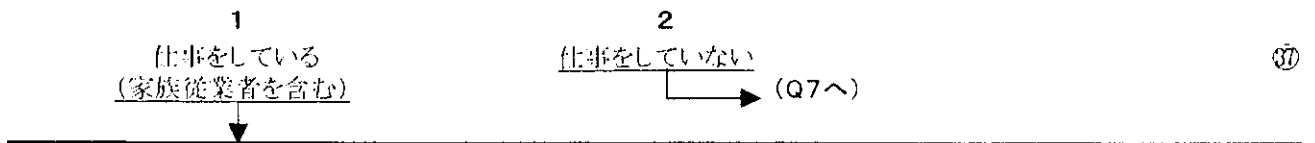
【調査員記入】

- ・生年月日 (正誤)
- ・年 齢 (正誤)

【01】

Q2. 現在、あなたは、収入が得られる仕事をしていませんか。自営の仕事の手伝いも含みます。

【調査員注】会社役員・不動産経営などで、何らかの実働(アドバイスや相談役、家賃管理、建物管理など)を伴う場合は有職とみなすが、名前だけの役員やお金が振り込まれるだけの実働を伴わないケースは無職とみなす。



Q3. (1) 【回答票1】 あなたの主な仕事は次のどれにあたりますか。

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 1(ア) 常時雇用されている | 3(ウ) 自営業主 |
| 2(イ) 臨時雇用・パート・アルバイト(シルバー人材派遣も含む) | 4(エ) 家族従業(家業などの手伝い) ㉘ |
| | 5(オ) その他() |
-

(2) あなたのお仕事の内容を、具体的にお聞かせください。(経理事務、食料品の販売、アパートの管理人、大工、和服の仕立て、牛乳配達などのように具体的に)

() ㉙

(3) 従業員(働いている人)は、会社全体(支店・営業所も含む)で何人くらいですか。自営業の場合はご自分、家族従業者も含めてお答えください。 【調査員注】パート・アルバイトの人数は従業員数から除く。

- | | | | |
|--------|------------|------------|-----------------|
| 1 1人 | 4 10~29人 | 7 300~499人 | 10 官公庁(公立学校を含む) |
| 2 2~4人 | 5 30~99人 | 8 500~999人 | 11 わからない ㉚㉛ |
| 3 5~9人 | 6 100~299人 | 9 1,000人以上 | |
-

(4) 役職はありますか。(あると答えた人に)それは何ですか。

() ㉜

(5) 【調査員記入】 (1)~(4)の内容から、調査要領の[職業リスト]を参照して、該当する職業名とコード No.を記入する。

職業名

()

【職業コード】

--	--	--

㉝~㉞

【01】

Q4. あなたは、この1年間で全部で何カ月くらい働きましたか。有給休暇や病気で休んだ日も含めますが、休職期間は除いてお答えください。

- | | | | |
|-------|-------|--------------|-----------------|
| 1 1カ月 | 5 5カ月 | 9 9カ月 | 13 働かなかった→(Q7へ) |
| 2 2カ月 | 6 6カ月 | 10 10カ月 | 14 忘れた |
| 3 3カ月 | 7 7カ月 | 11 11カ月 | (46)(47) |
| 4 4カ月 | 8 8カ月 | 12 12カ月(1年間) | |

Q5. あなたは週に何日間働いていますか。

- | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|---------|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | (48) |
| 1日 | 2日 | 3日 | 4日 | 5日 | 6日 | 7日 | 決まっていない | |

【調査員注】

- ・ 月3回週休2日制は5日に含める。
- ・ 月2回週休2日制・月1回週休2日制は6日に含める。
- ・ 週によって働いている日が異なる場合は平均し、小数点以下は4捨5入する。月単位の場合、月1～5日は週1日とし、以下、月6～9日は週2日というように4で割った値(月26日以上は週7日)とする。1日おき(平均3.5日)の場合は4日とする。

Q6. 1日の仕事時間は何時間ですか。

--	--

 時間

1 決まっていない

【調査員注】

- 30分未満は切り捨て、30分以上は切り上げる。
 - 昼休みなどの休憩時間を含む。
- (49)～(51)

【全員に】

Q7. 平成11年10月から現在までの3年間に、仕事をやめたり、かえたことがありましたか。あるいは、自営の事業を後継者に譲ったことがありましたか。

1 ある

2 ない

(Q8へ)

(52)

SQ. 最後にやめたのはいつでしたか。

1 平成11年

2 平成12年

3 平成13年

4 平成14年

(53)

--	--

 月

(54)

(55)

1 忘れた

(56)

【全員に】

Q8. 【回答票2】次に、あなたのご家族のことについてうかがいます。あなたは、現在、結婚していますか。

【調査員注】結婚には、内縁関係や事実婚を含める。

1 (ア) 結婚している
(入院、施設入所、単身赴任のための別居を含める)

3 (ウ) 離婚した
(Q11へ)

5 (オ) 一度も結婚したことがない
(Q11へ)

(57)

2 (イ) 別居している

4 (エ) 死別した

6 わからない (Q11へ)

Q9. 現在、配偶者の方は、収入になる仕事をしていますか。

1 仕事をしている

2 仕事をしていない

(58)

Q10. (死別した人に)(ご主人)(奥様)が亡くなられたのはいつでしたか。

1 大正

2 昭和

3 平成

(59)

--	--

 年

--	--

 月

(60)

(61)

(62)

(63)

(64)

【全員に】

⑬⑭=02

Q11. あなたには、お子さんは何人いますか。養子は含みますが、嫁・婿、亡くなったお子さんは含みません。

	人	0 いない	(Q12へ)
⑮	⑯	⑰	

SQ. それぞれのお子さんについてうかがいます。

【調査員注】左端の第1子から第10子まで該当人数分に○をつけ、第1子から順に性別、年齢、配偶者の有無、仕事の有無、自宅からの距離を聞く。自宅からの距離は、ふだん使っている交通手段での時間。

	○番目のお子さんは、男性ですか女性ですか。	○番目のお子さんは、今大体おいくつですか。	○番目のお子さんには、配偶者がいますか。	○番目のお子さんは、収入の伴う仕事をしていますか。	あなたのお宅から、○番目のお子さんのお宅まで、どのくらい時間がかかりますか。	
第1子	1 男性 2 女性	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> 歳	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ	1 同居 2 10分未満 3 1時間未満 4 1時間以上	⑮～⑳
第2子	1 男性 2 女性	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> 歳	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ	1 同居 2 10分未満 3 1時間未満 4 1時間以上	㉑～㉖
第3子	1 男性 2 女性	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> 歳	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ	1 同居 2 10分未満 3 1時間未満 4 1時間以上	㉗～㉚
第4子	1 男性 2 女性	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> 歳	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ	1 同居 2 10分未満 3 1時間未満 4 1時間以上	㉛～㉘
第5子	1 男性 2 女性	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> 歳	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ	1 同居 2 10分未満 3 1時間未満 4 1時間以上	㉙～㉜
第6子	1 男性 2 女性	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> 歳	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ	1 同居 2 10分未満 3 1時間未満 4 1時間以上	㉝～㉠
第7子	1 男性 2 女性	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> 歳	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ	1 同居 2 10分未満 3 1時間未満 4 1時間以上	㉡～㉦
第8子	1 男性 2 女性	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> 歳	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ	1 同居 2 10分未満 3 1時間未満 4 1時間以上	㉧～㉫
第9子	1 男性 2 女性	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> 歳	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ	1 同居 2 10分未満 3 1時間未満 4 1時間以上	㉬～㉰
第10子	1 男性 2 女性	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> 歳	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ	1 同居 2 10分未満 3 1時間未満 4 1時間以上	㉱～㉴

⑱

【02】

【全員に】

⑬⑭=03

Q12. 現在、一緒に住んでいるご家族は、あなたを含めて何人ですか。

--	--	--	--

⑮ ⑯

Q13. それでは、一緒に住んでいる人のあなたとの続き柄、年齢、性別を順におっしゃってください。

【調査員注】・回答者との続き柄の番号(1~12)は、家族の人数分すべてに○をつける。

・同居の子どもについては、Q11SQ より年齢、性別を書き写し、Q12 の人数を確認しながら、子ども以外の同居家族を聞いていく。

	回答者との続き柄	アフターコード	年 齢	性 別	
1	回答者 本人	0	[] [] 歳	1 男 2 女	⑲~㉓
2	回答者の	[] []	[] [] 歳	1 男 2 女	㉔~㉘
3	回答者の	[] []	[] [] 歳	1 男 2 女	㉙~㉛
4	回答者の	[] []	[] [] 歳	1 男 2 女	㉜~㉚
5	回答者の	[] []	[] [] 歳	1 男 2 女	㉝~㉟
6	回答者の	[] []	[] [] 歳	1 男 2 女	㉞~㊀
7	回答者の	[] []	[] [] 歳	1 男 2 女	㊁~㊅
8	回答者の	[] []	[] [] 歳	1 男 2 女	㊆~㊊
9	回答者の	[] []	[] [] 歳	1 男 2 女	㊋~㊏
10	回答者の	[] []	[] [] 歳	1 男 2 女	㊑~㊓
11	回答者の	[] []	[] [] 歳	1 男 2 女	㊔~㊘
12	回答者の	[] []	[] [] 歳	1 男 2 女	㊙~㊛

⑰⑱

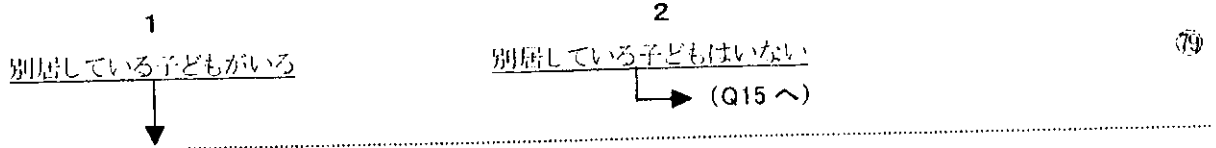
【アフターコード】

- | | | | |
|-----------|---------|----------|--------|
| 1 配偶者 | 4 孫 | 6 父 母 | 8 兄弟姉妹 |
| 2 子ども | 5 孫の配偶者 | 7 配偶者の父母 | 9 その他 |
| 3 子どもの配偶者 | | | |

【03】

〔社会的統合－1〕

Q14. 【調査員確認】4ページのQ11SQを参照して記入する。



SQ. 【回答票3】 離れて暮らしているお子さんについておたずねします。お子さんを全部合計して、大体何回くらい会ったり、電話や手紙のやりとりをしたりしていますか。【調査員注】手紙には電子メールやFAXを含む。

- | | | |
|-----------------|-------------------|---|
| 1 (ア) 1週間に2回以上 | 4 (エ) 1カ月に1回くらい | ⑩ |
| 2 (イ) 1週間に1回くらい | 5 (オ) 1カ月に1回より少ない | |
| 3 (ウ) 1カ月に2、3回 | 6 (カ) まったくない | |
| | 7 わからない | |

〔全員に〕

Q15. あなたには、心を打ち明けて、自分の思っていることや心配ごとを話すことができる親しい友達はいませんか。(いる場合)何人くらいいますか。

<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> </table> 人			0 いない	1 わからない	⑪
⑫					

Q16. あなたには、お互いに家を行き来するような間柄のご近所の人はいませんか。(いる場合)何人くらいいますか。

<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> </table> 人			0 いない	1 わからない	⑬
⑭					

Q17. 【回答票3】 何回くらい、友達やご近所や親戚の方と会ったり、一緒に出かけたり、お互いの家をたずねたりしますか。お子さんは含めないでお答えください。

- | | | |
|-----------------|-------------------|---|
| 1 (ア) 1週間に2回以上 | 4 (エ) 1カ月に1回くらい | ⑮ |
| 2 (イ) 1週間に1回くらい | 5 (オ) 1カ月に1回より少ない | |
| 3 (ウ) 1カ月に2、3回 | 6 (カ) まったくない | |
| | 7 わからない | |

Q18. 【回答票4】 何回くらい、友達やご近所や親戚の方と電話で話しますか。お子さんは含めないでお答えください。

- | | | |
|----------------|-------------------|---|
| 1 (ア) 1日に2回以上 | 4 (エ) 1週間に1回くらい | ⑯ |
| 2 (イ) 1日に1回くらい | 5 (オ) 1週間に1回より少ない | |
| 3 (ウ) 1週間に2、3回 | 6 (カ) まったくない | |
| | 7 わからない | |

【03】

Q19. (1) この1年間に、あなたは「親しい友人」を亡くした経験はありますか。

⑬⑭=0+1

(2) この1年間に、あなたは「兄弟姉妹」を亡くした経験はありますか。

	ある	ない	
(1) 親しい友人	1	2	⑮
(2) 兄弟姉妹	1	2	⑯

Q20. 平成 11 年 10 月以降に亡くなられたお子さんはいらっしゃいますか。

⑰=skip

1 いない

2 いる

⑱

SQ. そのお子さんが亡くなられたのはいつでしたか。

平成 年 月 ⑲～⑳

平成 年 月 ㉑～㉒

平成 年 月 ㉓～㉔

【全員に】

Q21. あなたは、町内会、自治会、老人クラブ、商工会、宗教のグループ、またはその他のクラブやグループに入っていますか。(入っている場合)全部でいくつ入っていますか。

個

0 はいっていない

1 わからない

㉕～㉖

→ (次ページ上段の【調査員注】へ)

SQ 1. 【回答票5】 そのようなグループの会合に、何回くらい、出かけますか。

【調査員注】 2つ以上のグループの会合があれば、その合計で答えてもらう。

1 (ア) 1週間に2回以上

4 (エ) 1カ月に1回くらい

2 (イ) 1週間に1回くらい

5 (オ) 1カ月に1回より少ない

㉗

3 (ウ) 1カ月に2、3回

6 (カ) まったくない → (次ページ上段の【調査員注】へ)

7 わからない

SQ 2. 【回答票6】 (SQ1で1～5の出かけていると答えた人、あるいは7(回数)はわからないと答えた人に)

あなたが会合に出ているグループは、どのようなグループですか。(M. A.)

1 (ア) 町内会・自治会

5 (オ) 職域関係のグループ・組合

2 (イ) 老人会・老人クラブ

6 (カ) 宗教関係の会・グループ(氏子・檀家の会、教会など)

3 (ウ) (老人会以外の)趣味や学習・
スポーツの会・グループ

7 (キ) 市民運動・消費者団体

㉘

4 (エ) ボランティア・社会奉仕団体

9 (ケ) その他(具体的に)

【04】

【全員に】

【調査員注】これまでの質問で、対象者の理解力が著しく低いように思われる場合には、記憶力に関する質問 Q 90～Q 98 (34 ページ)に移る。理解力に問題がないと思われる場合はQ22 へ進む。

【医療機関への受診】

Q22. 最近 3 ヶ月の間に、病気の診断や治療のために何回医者にかかりましたか。薬だけの場合や電話での相談も含みますが、歯医者や入院は含みません。また、鍼灸院、整体院で受けた、はり、きゅう、マッサージも含みません。

【調査員注】 人間ドックや健康診断は含めない。総合病院などで2つの診療科に行った場合は、2回と数える。

--	--

回

0 かからなかった

1 わからない

⑩～⑳

Q23. では、この半年間、今年の 月 日(調査当日の6カ月前で質問する)以降、入院したことがありましたか。(「入院した」人に) それは、あわせて何日ですか。

--	--	--

日

0 入院しなかった

1 わからない

㉑～㉒

Q24. 健康や病気のことで気軽に相談できる診療所や病院をおもちですか。

1 はい

2 いいえ

㉓

【健康状態および身体の障害】

Q25. 【回答票7】次に健康についてうかがいます。あなたは、現在、次のような病気やこれらの病気の後遺症をおもちですか。

【調査員注】(1)～(23)まで、「その他」も含めて1つ1つ聞いていく。

	ある	ない	わからない	
(1)心臓病	1	2	3	④④
(2)関節炎、リウマチ、神経痛	1	2	3	④⑤
(3)高血圧	1	2	3	④⑥
(4)糖尿病	1	2	3	④⑦
(5)脳卒中、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血	1	2	3	④⑧
(6)白内障、緑内障、その他の目の病気	1	2	3	④⑨
(7)パーキンソン病	1	2	3	⑤⑩
(8)ガン	1	2	3	⑤⑪
(9)貧血(症)	1	2	3	⑤⑫
(10)静脈炎、あるいは足の静脈の病気	1	2	3	⑤⑬
(11)胃や腸のかいよう	1	2	3	⑤⑭
(12)じん臓病	1	2	3	⑤⑮
(13)甲状腺の病気	1	2	3	⑤⑯
(14)痛風	1	2	3	⑤⑰
(15)床ずれ、足のかいよう、ひどいやけどなどの皮膚の外傷や病気	1	2	3	⑤⑱
(16)気管支炎、肺気腫、ぜんそく、結核、その他の慢性呼吸器の病気	1	2	3	⑤⑲
(17)慢性の腰痛	1	2	3	⑤⑳
(18)骨折、骨のひび	1	2	3	⑤㉑
(19)手や足の欠損や障害	1	2	3	⑤㉒
(20)肝臓、胆のうの病気	1	2	3	⑤㉓
((21)は男性のみに聞く) (21)前立腺の病気(お小水が出にくかったり、痛んだりする)	1	2	3	⑤㉔
(22)その他(具体的に)	1	2	3	⑤㉕
(23)その他(具体的に)	1	2	3	⑤㉖

Q26. あなたは、老眼鏡を含めて、メガネかコンタクト・レンズを使っていますか。

【調査員注】拡大鏡を使っている場合も「はい」にする。

1 はい



2 いいえ



67

(1) 【回答票8】メガネかコンタクト・レンズをつけた時、どの程度よく見えますか。

- 1 (ア) 非常によく見える
- 2 (イ) よく見える
- 3 (ウ) まあまあ見える
- 4 (エ) あまりよく見えない
- 5 (オ) まったく見えない
- 6 わからない

68

(2) 【回答票8】どの程度よく見えますか。

- 1 (ア) 非常によく見える
- 2 (イ) よく見える
- 3 (ウ) まあまあ見える
- 4 (エ) あまりよく見えない
- 5 (オ) まったく見えない
- 6 わからない

69

Q27. あなたは、補聴器を使っていますか。

1 はい



2 いいえ



70

(1) 【回答票9】補聴器をつけてどの程度よく聞こえますか。

- 1 (ア) 非常によく聞こえる
- 2 (イ) かなりよく聞こえる
- 3 (ウ) まあまあ聞こえる
- 4 (エ) あまりよく聞こえない
- 5 (オ) まったく聞こえない
- 6 わからない

71

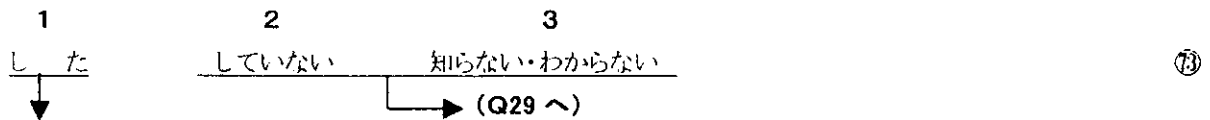
(2) 【回答票9】どの程度よく聞こえますか。

- 1 (ア) 非常によく聞こえる
- 2 (イ) かなりよく聞こえる
- 3 (ウ) まあまあ聞こえる
- 4 (エ) あまりよく聞こえない
- 5 (オ) まったく聞こえない
- 6 わからない

72

【04】

Q28. 平成12年に介護保険制度がスタートしました。この制度で介護サービスを受けるには、どの程度介護が必要な状態なのかについて「認定」を受ける必要があります。あなたは、この「認定」を受けるための申請をしたことがありますか。



S Q. 【回答票10】認定の結果はどのようなでしたか。

- | | | | |
|-------------|-------------|-------------------|---|
| 1 (ア) 自立 | 4 (エ) 要介護度2 | 7 (キ) 要介護度5 | |
| 2 (イ) 要支援 | 5 (オ) 要介護度3 | 8 (ク) 認定の結果を待っている | ⑭ |
| 3 (ウ) 要介護度1 | 6 (カ) 要介護度4 | 9 忘れた・わからない | |

【全員に】

Q29. 介護・福祉サービスの利用についておうかがいします。

【調査員注】・(1)ホームヘルプサービスは同居家族が利用した場合を含む。

・(2)デイサービス、(3)ショートステイは本人が利用した場合に限る。

(1) お宅では、この1週間にホームヘルパーを利用しましたか。(利用した人に)それは何回ですか。

【調査員注】対象者から、サービスについて質問が出た場合は、以下を参考に答える。

ホームヘルプサービス…ホームヘルパーに家庭を訪問してもらい、家事や介護を助けてもらうサービス

この1週間に 回 0 利用していない ⑮⑯

(2) あなたご自身は、この1週間ではデイサービスを利用しましたか。(利用した人に)それは何回ですか。

【調査員注】対象者から、サービスについて質問が出た場合は、以下を参考に答える。

デイサービス…バスなどでサービスセンターに送迎してもらい、日中、食事、機能訓練や健康チェックなどを受けるサービス

この1週間に 回 0 利用していない ⑰⑱

(3) あなたご自身は、この3カ月ではショートステイを利用しましたか。(利用した人に)それは何回ですか。

【調査員注】対象者から、サービスについて質問が出た場合は、以下を参考に答える。

ショートステイ…1週間程度の短い期間、老人ホームなどに滞在し、介護を受けるサービス

この3カ月に 回 0 利用していない ⑲～⑳

【04】

〔日常生活動作〕

⑩⑪=05

Q30. 【回答票 11】 あなたの日常生活のことについておたずねします。これから読みあげることを他の人の手助けなしに行うことはどの程度難しいですか。((1)~(6)まで、1つ1つ聞く)

	(ア) ぜんぜん 難しくない	(イ) すこし 難しい	(ウ) かなり 難しい	(エ) 非常に 難しい	(オ) まったく できない	わからない	
(1)お風呂に入る	1	2	3	4	5	6	⑮
(2)衣服を着たり脱いだりする	1	2	3	4	5	6	⑯
(3)食べる	1	2	3	4	5	6	⑰
(4)寝床から起き上がったり、椅子から立ち上がったりする	1	2	3	4	5	6	⑱
(5)外にでかける	1	2	3	4	5	6	⑲
(6)トイレまでいって用をたす(自分の家のトイレ)	1	2	3	4	5	6	⑳

【調査員注】 以上の項目のうち、1つでも2~5と回答した人は以下のSQへ

SQ. この3か月では、必要な時にこのような動作を手助けしてくれた人はいますか。ヘルパーなど家族以外の方も含めます。

1 ほとんどいつもいた 2 ときどきいた 3 まれにいた 4 いなかった 5 必要なかった

㉑

〔全員に〕

〔手段的活動能力〕

Q31. 【回答票 12】 では、次にあげることが他の人の手助けなしに行うことはどの程度難しいですか。

((1)~(4)まで、1つ1つ聞く)

	(ア) ぜんぜん 難しくない	(イ) すこし 難しい	(ウ) かなり 難しい	(エ) 非常に 難しい	(オ) まったく できない	わからない	
(1)身の回りの物や薬などの買い物に出かける	1	2	3	4	5	6	㉒
(2)電話をかける	1	2	3	4	5	6	㉓
(3)バスや電車に乗って一人で出かける	1	2	3	4	5	6	㉔
(4)ちりを払ったり、ゴミを出すなどの軽い家事をする	1	2	3	4	5	6	㉕

【調査員注】以上の項目のうち、1つでも2~5と回答した人は以下のSQへ

SQ. この3か月では、必要な時にこのような動作を手助けしてくれた人はいますか。ヘルパーなど家族以外の方も含めます。

1 ほとんどいつもいた 2 ときどきいた 3 まれにいた 4 いなかった 5 必要なかった

㉖

〔全員に〕

Q32. 【調査員確認】Q30のSQ、およびQ31のSQを参照して○をつける。

- 1 Q30のSQの1~3(下線部)に○がある →Q33へ
- 2 Q31のSQの1~3(下線部)に○がある →Q33へ
- 3 いずれの下線部にも○はない →14ページのQ34へ

㉗

【05】

Q33. この3か月の間に、このような動作(Q30,Q31のような動作)の手助けをもっともしてくれたのはどなたですか。
ヘルパーなど家族以外の方も含めてお答えください。

【アフターコード】

--	--

②③④

1 番目

→ 子ども(婿・嫁)の場合、上から 番目の子ども(の配偶者) X 死亡した子どもの配偶者

⑩⑪

SQ. 2番目に手助けしてくれたのは、どなたですか。

【アフターコード】

--	--

X 2番目に手助けしてくれた人はいない

⑫~⑭

2 番目

→ 子ども(婿・嫁)の場合、上から 番目の子ども(の配偶者) X 死亡した子どもの配偶者

⑮⑯

【調査員注】「子ども全員」のような回答が出た場合は、できる限り子どもを特定させる(何とか順位をつけてもらう)。
やむを得ない場合のみ、33のコードとする。

【アフターコード】

- | | | | |
|-------|------|-----------|-------------|
| 1 配偶者 | 5 婿 | 9 孫 | 13 ヘルパー・家政婦 |
| 2 親 | 6 嫁 | 10 その他の親族 | 14 その他 |
| 3 息子 | 7 兄弟 | 11 友達 | |
| 4 娘 | 8 姉妹 | 12 近隣の人 | 33 複数の子ども |

【05】